



灰田 昌典(はいだ・まさのり)議員

一括質問

## 小松市宮向本折墓地について

### ◆向本折墓地について

**Q** 今回無縁墓の整理に伴い使用許可を再開するとの事であり、高齢化が進展する中、市街地に近い墓地を求める声を聞くが、区画の大きさ、区画数、値段、募集期間は。

**A** 今回、使用許可を考えている第1期分の区画は、面積が3〜6㎡程度の約30区画であり、永代使用料は小松市に住民票がある人は1㎡あたり17万円である。10月中旬に市民応募条件を知らせ、11月に公募、12月に使用者を決定する予定である。

**Q** 無縁墓の整理による供養施設整備は。

**A** 無縁となった墳墓とお骨を供養する納骨堂などの施設が必要になると考えている。

**Q** 少子化に伴い、近年、合葬式墓地を求める声が多くなってきた。合葬式墓地の計画を図るべきと思うが如何か。

**A** 小松市でも合葬式墓地を求める声があり、今後、先進地の状況を調査し検討課題としたい。

**◆「ごみダイエット50%費」について**  
**Q** 昨年10月に導入された「ごみダイエット袋」については、本市

独自のユニークな取り組みとして他市からも注目された。制度導入直後は幾分か混乱もあったが、現在は、各町内会役員のお世話により浸透してきた。今回、具体的にどう変わるのか。

**A** 指定ごみ袋の製造から在庫管理、配送までを民間業者に一括委託し流通の安定を図る。また無償引換券のハガキについて、1通で4人まで列記できたものを6人まで増やす。

**Q** 実質的な経済効果は。

**A** 在庫管理等にかかる人件費、ハガキの見直しによる経費等の直接的経費で、年間で約1000万円のコスト縮減となる。

**Q** これまでの「ダイエット」の実績は。

**A** 制度導入後の平成28年下半期の家庭系可燃ごみの削減率は、対20年比24・6%減である。リサイクル率についても、官民あげてのリサイクルコーナー設置により、平成28年度は20%強と上がっている。皆様のご協力に感謝している。



井田 秀喜(いだ・ひでき)議員

一問一答

## 年間を通して楽しめる 歌舞伎のまちへ

### ◆お旅まつり

**Q** 250年祭を終えて。

**A** 平成26年から曳山250年と銘打ち、後継者育成や魅力づくり等に取り組んでおり、メディアに取り上げられるなど全国的に注目を集めた。またお旅まつりが賞を受賞するなど全国から高い評価を得ている。

**Q** 市内全域に歌舞伎のまちが浸透しているのか。

**A** 小松市において「歌舞伎のまち」を自慢される方が非常に多く、ここ数年で盛り上がってきていることは間違いなくという意識を持っている。

**Q** 今後、行政として祭りへの関わりは。

**A** この250年祭で曳山八基曳揃えをはじめとするお旅まつりの魅力が増した。それを様々な形で盛り上げるために、行政も一緒に考えていく。同様の都市と交流し、曳山子供歌舞伎の祭りをブランド化する声も強まっている。こまつ町家とあわせた歌舞伎のまちの相乗効果で町が元気になることを期待している。

**◆全国子供歌舞伎フェスティバルin小松**  
**Q** 市民参加の取り組みは。



市民総参加の歌舞伎

**A** 勧進帳の役者、長唄囃子方を市内の子ども達から公募し、指導者や裏方等スタッフも市民中心である。また、市内商店が関連グッズの制作・販売をしている。

**Q** 「歌舞伎のまち」と言うが5月に集中している。開催時期は妥当なのか。

**A** 秋の伝統芸能祭、中学校古典教室、年間を通して未来塾の発表会等、通年で魅力を発信している。

**Q** 来年20年目の節目を迎える。今後の展開は。

**A** 市民共創の歌舞伎のまちを「和 문화の華咲くまち小松」というテーマで展開していきたい。20年目の節目については、これから検討していきたい。



木下 裕介(きのした・ひろゆき)議員

一問一答

## 栗津駅の利便性向上を！

### ◆栗津駅周辺整備について

**Q** 市は駅周辺地区整備方針を示しているが、方針の基幹事業としている駅の東西を結ぶ連絡通路の整備時期は。

**A** 定期的にはいつだということとは申し上げられないが、まず駅西の道路を整備し、そこへバスを通すという基本的な構想がある。栗津駅は南部地区で一番のアクセスの入り口であり、しっかりと整備をしていきたい。

### ◆中小企業対策について

**Q** 人材確保を支援するため、新たに正社員を雇用した中小企業に対して、社会保険料負担額の2分の1相当を助成金として5年間支給してはどうか。

**A** 国や県、他市の状況を見ながら、ハローワーク小松等で構成する雇用対策連絡会で、人材育成、働く職場環境に関する効果的な施策を検討し、支援していきたい。

### ◆民泊について

**Q** 住宅の空き部屋を有料で旅行者に貸し出す民泊のルールを定め

た住宅宿泊事業法案が成立した。来年1月から施行されるが、今後の対応は。

**A** 農家民宿を含めた多様な民泊サービスが展開できる仕組みづくりや、民泊に起因した地域住民とのトラブル防止対策等を検討していく。

### ◆終末期医療について

**Q** 自宅での看取りを本人や家族が望んだ場合、市の在宅終末期医療体制の現状の取り組みと今後の課題は。

**A** かかりつけ医を中心に看護師、ヘルパーなど医療や介護の関係者が連携し、チームとして支援している。今後、ますます高齢者が増える中、様々な選択に応えることができるよう、さらに連携して、本人の希望に沿ったケアを提供できる体制をつくっていくことが大切だと考えている。市では、「はつらつシニアかんじん帳」を配布しており、それを活用し、リビングウィルを普及させていきたいと考えている。

### ◆リビングウィルとは…

意思決定能力のあるうちに終末期医療に関する意思を家族などに伝えておくこと。



吉村 範明(よしむら・のりあき)議員

一問一答

## 松東校下「新しい学校づくり」を含めた今後のまちづくりについて

### ◆仮校舎について

**Q** 波佐谷小学校を仮校舎に選定した理由は。

**A** 児童の安全、教育環境、利便性の3点を中心に総合的に検討し選定した。その際、地域の意見を聞き、最終的には松東地区小学校統合推進委員会委員の了解を得て決めた。

**Q** 改修の内容は。

**A** ハード面では、ロッカーと下足箱の整備、給食室の改修であり、ソフト面では、校歌や校章の制作費を予定している。

**Q** 西尾小はスクールバスがあると、思うが金野小も利用するのか。

**A** 遠隔地ということで金野小も利用する。

**Q** バスの乗降場や参観日・運動会時の駐車場が必要と考えるが対策は。

**A** 児童の安全を第一に考え、地域の意見、状況を鑑み、検討し考えていきたい。

### ◆新校舎の建設について

**Q** 新校舎の予定地は。

**A** 松東中の横に小学校部の校舎を増築する予定である。

**Q** 校舎はどのようになるのか。

**A** 構想段階だが、ICTを駆使し海外と交流できるルームや、色々な人と交流し理解を深め合えるルームの設置、職員室も一つにまとめることが適切だと考えている。

### ◆保育所について

**Q** 小学校に上がる前の未就学児の教育も含めた環境作りが一番重要だと思う。効果的な集団保育を実施していく上で統廃合を推進するとなっているが、時期や場所など今後どうするのか。

**A** 金野、瀬領の保育所について、松東地区における義務教育学校実施時期に合わせて統合し、認定こども園として進めていきたい。場所は、交通アクセスなどを総合的に勘案し、適地を選定したい。

### ◆地域団体について

**Q** 3校が統合されるが、地域には様々な団体がある。団体の統合について市の考え方は。

**A** 新しい学校づくりの動きを踏まえつつ、地元の相互理解と合意を最優先に、各組織、団体の在り方を考えていきたい。



浅村 起嘉(あせむら・きよし)議員

一問一答

## 医療と介護の一体改革とは

### ◆国民健康保険制度について

**Q** 来年度から県が財政運営を行うことになるが改革の概要は。

**A** 医療費の増加、税収減少に対し、制度の安定化を図るために県が主体となり、財政運営や効果的な事業運営の確保を行っていく。

**Q** 来年度の保険税率はどのように決定されるのか。

**A** 市の被保険者数や所得水準などによる県への納付金と標準保険税率を参考に市が決定する。

**Q** 国が拡充する財政支援の内容、市の取り組みは。

**A** 医療費適正化に向けた支援が行われ、市でははつらつ健診の受診率向上、ジェネリック医薬品の使用促進等に取り組んでいる。

### ◆石川県地域医療構想について

**Q** 昨年11月に策定された経緯と医療介護施設での位置付けは。

**A** 高齢者が地域で安心して暮らしたいけるよう、医療提供体制を構築するためであり、第七次石川県医療計画の一部となる。

**Q** 機能別の病床数の状況と医療構想における必要病床数は。

**A** 高度急性期、急性期、慢性期病床などが過剰であり、回復期病

床が不足という結果である。南加賀では約700床が過剰となっている。

**Q** 慢性期病床を減少させるためには在宅医療の充実を図らなくてはならない。かかりつけ医の確保が課題では。小松市の現状と今後の考えは。

**A** 在宅医療と介護の連携に関する課題や対策について検討を進めている。

### ◆学校現場の業務改善は

**Q** 教員の過重労働から授業の十分な準備ができない。市としての改善はどうか。業務の必要性を見直し重点化を勧めてほしい。

**A** 市教委では担当者会を集約したり自主的な教育会と市教委の研修会を合わせるなど業務軽減を図っている。また、各学校の取り組みを紹介し合い有効な手だてを共有している。

**Q** 学力調査のねらいは、授業の改善を図るためと考えるが、国や県の調査結果による子どもたちの負担となる過度の取り組みとならないように指導していただきたい。

**A** 一人ひとりの学力を把握して指導にいかしていく目的は十分理解されていると考えている。



高野 哲郎(たかの・てつろう)議員

一問一答

## 中学校部活動の休業日について

### ◆中学校部活動の休業日について

**Q** 今年3月、中学校部活動の運営において、原則日曜日を休業日とする通達があったが、これに至った経緯は。

**A** 文部科学省からの通知が今年1月に改めてあり、スポーツ医学等の専門的な視点から部活動の適切な在り方を見直し、南加賀3市1町とも協議を行い、休業日を設けた。

**Q** 運用を始めて数ヶ月経つが、生徒・保護者・教職員それぞれの反応は。

**A** 生徒保護者とも賛成の声が多いが、競技力向上を懸念する声もある。教職員からは、生徒の心身の健康等の効果についての意見が多い。

**Q** 生徒に対し日曜日の過ごし方の指導等は行っているのか。

**A** 学校では様々な有効な過ごし方を指導している。

**Q** 県内統一のルールでの運用が望ましいのでは。

**A** 文部科学省からの通知による運用であり、全国共通のルールである。

### ◆小松市の水産業の活性化に向けて

**Q** 小松市では農業・林業の活性化に向けて成果をあげているが、漁業の活性化に向けての議論で盛り上がりがないのが残念である。そこで、小松市の水産業の現状を尋ねる。

**A** 安宅漁港について、開港時の昭和63年に、組合員数66名、平均年齢52歳、漁船数64隻であったが、組合員の高齢化や担い手不足により、平成29年度末には、組合員数34名、平均年齢67歳、漁船数28隻となっている。

**Q** ニーズと消費を高める施策はどんなものがあるか。

**A** 子どもたちに魚の魅力を知ってもらうための稚魚放流や漁師体験の実施、安宅漁港びちびち市の開催など、更なる消費拡大に取り組んでいる。

**Q** 漁業資源と観光施策をもっとリンクさせる必要があると考えるが。

**A** 道の駅や飲食店、粟津温泉への売り込みを漁業者と連携して行い、観光客に対する販路拡大を図っていききたい。



片山 瞬次郎(かたやま・しゅんじろう)議員

一問一答

## (仮称)小松駅南ブロック 複合施設の全体像

◆小松駅南ブロックの複合ビルについて

Q これまでの流れは。

A 市の要望であったホテル誘致など課題解決の提案を求めると、平成26年6月に民間事業者を募集。民間有識者による審査委員会が青山財産ネットワークスと清水建設の共同事業提案が選ばれた。平成27年10月に国の補助金交付決定を受け、その後、施設の2〜3階を公立小松大学とする計画変更手続きをし、平成28年6月に民間による工事着手、本年5月に国の会計検査を受け、現在に至っている。

Q このビルの特別目的会社への企業誘致補助金の妥当性は。

A 都市機能をどう高めていくかという命題の中、平成24年6月に企業誘致の助成金制度に都市機能という言葉を加えた。今回のスキームは狙い以上のベストマッチングと想っている。

◆老人世帯の見守りと地域の結びつきについて

Q 地域の気づきこそ一番と思うが。

A 変化に早く気づくのは隣近所の人が多い。それをできるだけ早く民生委員や高齢者総合相談センター

につないでいけるかが大切であると考えている。

Q 高齢者総合相談センターを町内会や婦人会等で周知を。

A これまで町内会長や民生委員などの会合、広報等で周知を図ってきた。今後要望に応じ、積極的に出向き周知を図っていきたい。

◆救急医療情報キットについて

Q 配布の意義(概要と効果)は。

A 自らの救急情報を容器に入れ分かりやすい場所に備え、救急時に適切な処置を期待するものである。市では、「わが家の防災ファイル」等を該当のものとしており、しっかりと機能するようPRをしていく。



建設中の(仮称)小松駅南ブロック複合施設



川崎 順次(かわさき・じゅんじ)議員

一問一答

## これからの小松の農業を どう守っていくのか!

◆「小松の農業について」「鳥獣害について」

Q 農作物被害への今後の対策と、イノシシの食肉用への活用は。

A 引き続き、柵の設置、捕獲を行うっていく。また獣肉処理施設の新設計画を近隣市町と進めている。

Q 被害防止への農水省の予算は。

A 具体的にまだ練られていないが、できる限り尽力したい。

Q 農産物輸送支援について、都市圏への輸送に高速バスの利用は。

A 大量輸送できる合い積み輸送の可能性を調査研究し、導入を検討したい。

Q 安全認証取得支援について、東京オリンピックの食事支援では必要である。認証支援が小松のPRの大きなチャンスでは。

A 総合的な見地から検討したい。

Q 農業人材獲得について、昨年小松にきた就農者は何人か。また遊休農地の解消、及び解消に向けての取り組みは。

A 就農に向けた説明会において県外から来た方はいないが、平成29年新規就農者は7名である。農家になるために必要な農地取得の下限面積を中山間地域では下げている。

◆子供達の登下校時の安全策は

Q 通学路のソフト、ハード面からの整備を進めよ。

A 安全対策として、情報連携、防犯カメラ設置等による未然防止児童の危険回避能力の育成が重要であり、引き続き指導・支援を行っていく。

◆新幹線用地取得について

Q 6月末までに大丈夫か。

A 6月末というのは県の努力目標で、契約の期限ではないが、早期契約に向け頑張っていきたい。

◆小松のスポーツの考え

Q プロスポーツ大会の誘致を進めよ。子供達に夢を。スポーツ施設の充実を。

A トップリーグで活躍するチームや選手、高レベルのスポーツイベントの誘致・開催に努め、子供達がそれに触れられる事業に取り組み。またスポーツ施設の充実を図るため計画的に整備を進める。

◆高齢者の交通事故防止策は。

Q 免許返納の適齢期は。

A 運転操作能力、判断力には個人差があり、年齢だけで判断はできない。